

1. 研究者になろうとしたきっかけ

医学部を卒業後、3年目から呼吸器内科医としての研修を始めました。そこで診療に携わった肺がんや悪性中皮腫の患者さんに対して、当時の抗がん剤による治療法はほとんど効かず、もっとがんの本態の解明が必要と考え、研究の道に進みました。

2. 助成研究の内容紹介

悪性中皮腫はアスベスト（石綿）曝露後、約30年の潜伏期を経て生じる腫瘍です。現在、日本では年間約1400人の患者さんが亡くなっていますが、有効な治療法はまだありません。

悪性中皮腫は幾つかのがん抑制遺伝子に異常を生じて発症することが分かっています。がん抑制遺伝子は、それ自身が治療の標的にはなりにくいのですが、がん抑制遺伝子に異常を持つ腫瘍細胞は、ある別の遺伝子の機能を抑えると、がん細胞が増えるのをやめ、場合によってはがん細胞が死滅することがあります。悪性中皮腫の遺伝子解析を行い、そういった遺伝子を探していきたいと考えています。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

悪性中皮腫で異常が認められるがん抑制遺伝子のうち、高頻度の異常を示すものは3種類あります。これらのがん抑制遺伝子異常をもつ悪性中皮腫細胞に対して、別の遺伝子の機能を抑えることによって細胞死を誘導することが証明されれば、新たな治療法の開発につながることを期待されます。別の遺伝子の機能を抑制する薬は、悪性中皮腫に対する新たな治療薬となると考えられます。

4. 全国のRFL関係者に一言

「プロジェクト未来」研究助成に採択頂き、本当にありがとうございます。治療に結びつく成果をあげるよう努力するとともに、今後、RFLJの活動にも参加させて頂き、関係者の皆様方と直接に交流する機会が持てればとても嬉しく思います。